

438 中央大学剣道部大会

〔『法学新報』第26卷11(303)号 大正5年12月1日〕

○中央大学剣道部大会 去る十月十七日(神嘗祭)午前九時より中央大学に於ては学友会剣道部第十一次大会を同費大講堂に於て挙行せられたるか午前の部は本部部員の紅白高点勝負、午後の部は各学校選手及び本部部員との聯合三本勝負、本部部員中野讓氏の居合、桜井梅川今泉塩見諸先生の模範仕合ありて伊藤副会長挨拶の後各中学師範学校選手の一本抜高点勝負、各専門学校選手及び本部部員との紅白高点勝負に移り最後の五人掛ありて散会したるは午後七時頃にして当日は天気晴朗なる上各学校の運動会其他種種の催しありたるに拘はらず誠に盛況なりき今左に勝負の概要を記さん本部部員の紅白勝負は八木原五二氏六本を抜きて一等賞(刀)を、各中学師範学校の一本抜高点勝負にては麻布中学校の高橋秀晴氏五本を抜きて一等賞(金牌)を、海城中学校の阿部義一氏は四本豊島師範学校の奥山静彦氏は三本を抜きて各二等賞(銀牌)を得各専門学校選手と本部部員との紅白高点勝負にては本部の方初めより優勢にして中野氏三本、渡辺川上両氏各四本を抜きて当日の月桂冠は両氏の手中何れに授与せられんかと思はれしに紅軍の副将帝大の樋口氏出

つるや破竹の勢を以て四人を切倒し白軍をして哑然たらしめたるも遂に白軍は不戦者二人を残して大勝せり而して本部部員萱島操氏五本を抜き一等賞（金牌）、帝国大学の樋口芳包氏本部部員川上喜三渡辺春三中野讓諸氏は各二等賞（銀牌）を得たり尚ほ当日最後の呼物たる今泉師範対宮内樋口藤原武藤萱島諸氏の五人掛一本勝負は校友武藤秀三氏の手特別賞を授与せらる尚ほ当日来場せられたる渡辺子爵閣下より武藤氏の稽古優秀なるを以て刀一振を寄贈せられたり当日の重なる三本勝負左の如し（順序不同、校名なきは本部員なり）（委員報）

- | | | | | |
|--------|--------|---|--------|--------|
| ○ ○ 日大 | 島田 昌行 | × | ○ 久警 | 村上長右衛門 |
| | 松野 清一 | | ○ | 小平 三郎 |
| | 高商 | | × | ○ 帝大 |
| | 原田 友吉 | | | 武藤 義就 |
| ○ ○ 早大 | 中村 義丸 | | ○ | 宮内巳之助 |
| | 高師 | | | 帝大 |
| | 石川 太郎 | | | 曾布川征夫 |
| | 山崎祥次郎 | | ○ ○ | 萩原 銑次 |
| | ○ 帝大 | | ○ | ○ 有信 |
| | 樋口 芳包 | | × | 山本 智通 |
| | 遠山 寅雄 | | ○ | ○ 校友 |
| | ○ ○ 錦警 | | | 武藤 秀三 |
| | 近藤治三郎 | | ○ ○ 有信 | 牧 隆昌 |
| ○ ○ | 萱島 操 | | | 校友 |
| | | | | 高野 直一 |